

# 2024年国会議員はどのような人々か

——中央・地方の政治家一族(Political Family)による国会進出——

森下明子

## はじめに

2024年はインドネシアにとって大統領が交代する重要な年であった。正副大統領候補をめぐって選挙戦以前から中央政治アクター間の駆け引きが始まり、プラボウォ・スビアントの大統領当選後は、新政権を見据えて政治アクター間のネットワークの再編が進んだ<sup>1)</sup>。このようにインドネシアの大統領選挙は、中央政界の動向や向こう5年間のインドネシア政治の方向性を見通す上で非常に重要である。また大統領選挙をめぐる投票行動からは、ジョコ・ウィドド大統領(当時)に対する社会的支持や各候補者の選挙戦略もみえてくる(本書第1章および第8章を参照)。

では、大統領選挙と同日に実施された国会(DPR)、地方代表議会(DPD)、地方議会(DPRD)の議員選挙からは何がみえてくるだろうか。これらの議員選挙は、向こう5年の立法府および地方議会の担い手を決めるという意味で重要だけでなく、ジョコ・ウィドド(通称ジョコウィ)政権下に起きた水面下の政治社会的変化を示すという意味でも重要である。なぜなら、議員選挙の結果は、ジョコウィ第2期政権(2014~2019年)の5年間にどういった人びとが

1) 大統領選挙前後の中央政界の駆け引きについては本名(2024)、ナフダトゥル・ウラマーの動向については本書第9章を参照。またプラボウォ政権発足後の地方政界の動向については、2024年11月の統一地方首長選挙に関するMuhtadi(2024)の報告がある。

中央・地方レベルの政治社会的影響力を維持、拡大、もしくは新たに獲得し、今回の総選挙で各政党の議員候補者名簿に名を連ね、投票日には当選するに足る票数を集めることができたのかを示しているからである。簡潔に言えば、今回の総選挙で選ばれた議員たちは、ジョコウィ政権期下において政治家としての地位を維持、拡大、もしくは今回の総選挙で新たに獲得した人々である。

本章では、こうした議員たちのなかでもとくに国会議員に注目し、彼・彼女たちの家族的、社会的、政治的背景を明らかにする。とくに注目するのは、性別、宗教、出生年、国会議員歴、職歴、家族的背景、政治経歴である<sup>2)</sup>。また過去の国会議員との比較を通して、2024年国会議員の特徴を捉え、そこから国会という中央レベルの政治空間に表出するようになったインドネシアの政治社会的変化を明らかにする。

## 1 2024年国会議員の性別、宗教、出生年

2024年総選挙では、580人の国会議員が選出された。政党別の内訳は、闘争民主党110人、ゴルカル党102人、グリンドラ党86人、ナスデム党69人、民族覚醒党68人、福祉正義党53人、国民信託党48人、民主主義者党44人である。上位4政党と民主主義者党はいわゆる世俗政党であり、他方、民族覚醒党、福祉正義党、国民信託党の3党はいわゆるイスラーム政党である。しかし、国会議員の社会的属性に関して世俗政党とイスラーム政党の間に大きな違いはない<sup>3)</sup>。例外として、福祉正義党議員は全員イスラーム教徒（ムスリム）であり、また1960年代生まれの議員の割合が他党に比べて高く、他方で闘争民主党に

---

2) 筆者は、民主化以降の6回の総選挙（1999年～2024年）で選ばれたインドネシア国会議員のプロフィールをデータベース化しており、本章の分析はこのデータベースに基づいている。なお、2019年以降は国会議員の詳細なプロフィール集が出版されていないため、2024年国会議員のプロフィールはインドネシア国会ウェブサイト、各政党ウェブサイト、国会・地方代表議会・地方議会のプロフィールを公開する民間のデータベースサイトLezen.id、新聞記事、国会議員経験者については過去のデータベースなどに依拠した。オンライン上ですべての情報が開示されていない議員もいるため、本章を参照・引用される際には、本章で示す数値が過小評価となっている可能性がある点に注意いただきたい。

は非ムスリム議員の割合が比較的高いという特徴がある。こうした点を含め、本節ではまず2024年国会議員の性別、宗教、出生年の特徴をみていこう。

### 1-1. 増加する女性議員——彼女たちは一体何者なのか——

インドネシアの総選挙では2008年以降、各政党に対して候補者名簿の少なくとも30%を女性候補者とするのが義務づけられている<sup>4)</sup>。一般に、こうしたクォータ制の導入は女性議員の増加に寄与すると考えられており(三浦・衛藤 2014)、インドネシアでも国会議員に占める女性議員の割合は徐々に増加している(表12-1)。1999年に民主化後初の総選挙が行われた際には、国会議員に占める女性議員の割合は9.6%にすぎなかったが、クォータ制が導入された翌年の2009年総選挙では、当選した国会議員の17.9%を女性議員が占めた。また前回の2019年総選挙では女性議員の割合が国会議員全体の20.9%となり、さらに今回の2024年総選挙では国会議員全体の21.4%(124人)を女性議員が占めている。

インドネシアにおける女性国会議員の増加は、ジェンダー平等の立場からみれば歓迎すべき傾向である。しかし彼女たちのプロフィールを分析すると、ジェンダーとは別の側面での社会格差が浮かび上がる。2024年女性国会議員124人の職歴をみると、経済界関係者が少なくとも39人(実業家29人、企業監査役5人<sup>5)</sup>、会社員5人)、芸能人が11人、大学教員が8人、公務員が6人、メデ

- 
- 3) 国会議員の社会的属性にみられる政党間の違いは年々薄れており、すでに2004年国会議員の特徴にもその兆候が現れていた(森下 2007)。2019年国会議員に至っては、福祉正義党を除き、もはや政党間の違いはほぼみられず(森下 2020)、2024年国会議員ではさらに福祉正義党についても他党との違いが薄まっている。
- 4) 2008年の改正総選挙法(法律2008年第10号)において、各政党の候補者名簿の少なくとも30%を女性候補者にすること(第53条)、候補者名簿においては3人ごとに少なくとも1人の女性候補者を含むこと(第55条)が義務づけられた。また2017年に改正された総選挙法(法律2017年第7号)にも同様の規定が定められている(ステプト 2021)。
- 5) 企業監査役はインドネシア語のkomisarisの日本語訳であるが、日本企業の監査役よりも強い権限をもつ。インドネシア企業の監査役は、会社を経営執行する取締役(direksi)に対して監督を行い、会社の財務に関する検査権と承認権をもつ。さらに、取締役の行為が会社に損害を与える恐れがある場合には、監査役が取締役に對する一時停職権、経営の代理執行権、臨時株主総会の招集権をもち、ほかに取締役の行為への承認権、取締役に説明を求める権限などを有する(佐藤 2005)。

表12-1 インドネシア国会議員に占める女性議員

選挙年	国会議員に占める女性議員の割合 (%)
1999	9.6
2004	11.1
2009	17.9
2014	17.3
2019	20.9
2024	21.4

(出所) Hillman(2017), Wardani and Subekti(2021), 筆者作成の2024年国会議員データベースを基に作成。

ィア関係者が3人、教師が3人いることがわかる<sup>6)</sup>。また彼女たちの政治経歴をみると、大臣経験者が2人、正副地方首長（正副州知事・県知事・市長）経験者が9人、地方議員経験者が21人、国会議員3期目（もしくは3回目）<sup>7)</sup>以上が35人である。

さらに女性議員の家族的背景をみると、中央・地方政治エリートの親族である女性議員が少なくとも50人いる。具体的には、三親等以内の親族に元大統領あるいは大臣経験者がいる女性議員が6人、国会議員経験者がいる女性議員が13人、正副地方首長経験者がいる女性議員が31人である。こうしたことから、2024年総選挙で選ばれた女性国会議員の多くは、もともと中央・地方政財界のアクターであるか、あるいは、中央・地方政治エリートの一族出身であることがわかる<sup>8)</sup>。国会の女性議員たちは、インドネシア社会のあらゆる階層の女性を代表しているわけではない。

6) 筆者作成の2024年国会議員データベースに基づく。なお、複数の職業経験をもつ議員がいるため、該当人数には重複がある。ただし経済界関係者の内訳については、企業監査役の該当人数から実業家を除くなどして重複がないようにしている。また政治経歴についても該当人数に重複がある。

7) 「3回目の議員」とは、連続して当選していないが、過去に二度国会議員を経験し、2024年総選挙でも国会議員に当選した者を指す。

8) 2019年国会議員についても、女性議員の44.2%が中央・地方政治エリートの親族であると報告されている（Wardani and Subekti 2021）。

インドネシアに限らず、女性というカテゴリーにのみ注目して「女性議員」の増加をめざす政策は、果たして女性有権者全般や低所得者層の有権者にとって有益な結果をもたらすのだろうか。たとえばアルゼンチンでは、クオータ制が1991年に下院選、2001年に上院選に導入されたが、2001年以降はジェンダー関連法案の採択率が低下しているという。その背景として、上院選の候補者選出過程に大きな影響力をもつ州知事が身内の女性を候補者に擁立するようになり、州知事の意向を汲んだ保守的な女性上院議員が増加したことが指摘されている(菊池 2013)。女性議員を分析する際には、性別だけでなく社会経済格差の観点からも彼女たちのプロフィールをみる必要があるだろう。

## 1-2. 2024年国会議員の宗教構成

### ——非ムスリム議員が集中する闘争民主党——

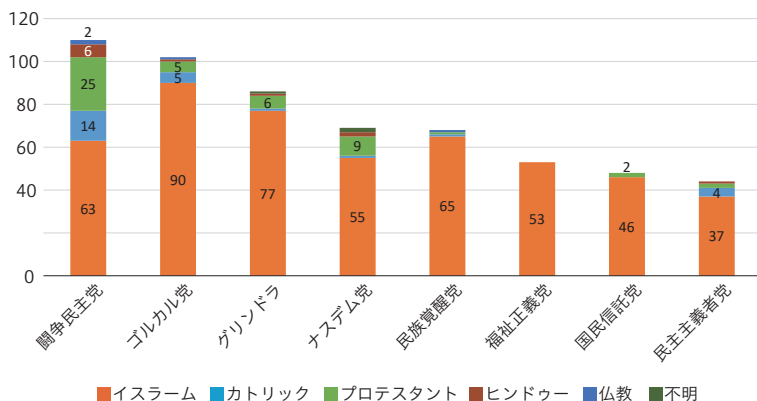
つぎに2024年国会議員の宗教についてみてみよう。国会議員全体では、イスラーム教徒(ムスリム)が486人(国会議員全体の83.8%)、プロテスタントが50人(同8.6%)、カトリック教徒が26人(同4.5%)、ヒンドゥー教徒が11人(同1.9%)、仏教徒が4人(同0.7%)、宗教不詳が3人(同0.5%)である<sup>9)</sup>。図12-1に示すように、イスラーム政党のひとつである福祉正義党を除き、どの政党にも非ムスリム議員がいる。また、闘争民主党は非ムスリム議員の割合が他党に比べてとくに高い。闘争民主党議員のうち、ムスリムは63人(闘争民主党議員全体の57.3%)、プロテスタントは25人(同22.7%)、カトリック教徒は14人(同12.7%)、ヒンドゥー教徒は6人(同5.5%)、仏教徒は2人(同1.8%)である。

闘争民主党に非ムスリム議員が多い理由はおそらく2つある。1つは、同党の歴史的、組織的背景に起因する。闘争民主党の前身である民主党は、スハル

9) 2024年時点でのインドネシア全人口に占めるイスラーム教徒の割合は約87%、プロテスタントの割合が約7%、カトリック教徒が約3%、ヒンドゥー教が約1.7%、仏教徒が0.7%であることから、国会議員全体に占める非ムスリムの割合は人口比に対して若干高い。インドネシアの宗教構成については、インドネシア内務省のデータベースSatu Data Pemerintah Dalam Negeri (SDPDN)を参照。

<https://e-database.kemendagri.go.id/dataset/1203/tabel-data?page=23> (2025年1月1日閲覧)

図12-1 2024年国会議員の宗教構成(政党別)



(出所)筆者作成の2024年国会議員データベースを基に作成。

ト政権期(1967~1998年)にそれまでの世俗主義系・キリスト教系政党を糾合・再編してつくられた政党である。そのため、現在でも党中央執行部や支部幹部、支持者に比較的多くの非ムスリムが含まれている。そうした組織的背景が国会議員の候補者選定にも反映されたといえるだろう。闘争民主党における非ムスリム議員の割合は過去の国会議員をみても高く、たとえば1999年総選挙で当選した闘争民主党議員の36.3%、2004年総選挙で当選した同党議員の39.0%が非ムスリム議員である(森下2007)。

もう1つの理由は、闘争民主党が今回の2024年総選挙において、比較的キリスト教徒人口の多いパプア地域で議席を増やしたことである。パプア地域では2022年にパプア州と西パプア州から新たに4州が分立し<sup>10)</sup>、その影響で国会議員選挙の選挙区が前回の2019年総選挙の2区(13議席)から6区(18議席)に増加した。パプア地域での闘争民主党の獲得議席数は、2019年総選挙の2議席から2024年総選挙では5議席に増加した。これらの議席を獲得した闘争民主党議員5人のうち3人がプロテスタント、1人がカトリック教徒である。こうした背景により、2024年闘争民主党国会議員に占める非ムスリムの割合は

10) パプア州からは中パプア州、山岳パプア州、南パプア州の3州が分立し、西パプア州からは南西パプア州が分割されて新設された(川村・水野2023)。

表12-2 2024年国会議員の出生年分布(政党別)

	2000年代	1990年代	1980年代	1970年代	1960年代	1950年代	1940年代	不明
闘争民主党	0	7	12	34	35	11	1	10
ゴルカル党	0	6	13	30	31	12	2	8
グリンドラ	1	6	20	29	17	8	2	3
ナスデム党	0	4	10	27	16	5	0	7
民族覚醒党	0	1	13	31	13	5	0	5
福祉正義党	0	2	3	14	27	2	1	4
国民信託党	0	6	2	19	12	3	0	6
民主主義者党	0	4	5	11	13	6	2	3
全体	1	36	78	195	164	52	8	46
割合	0.2%	6.2%	13.4%	33.6%	28.3%	9.0%	1.4%	7.9%

(出所)筆者作成の2024年国会議員データベースを基に作成。

これまでよりもさらに高まり、42.7%となった。

### 1-3. 2024年国会議員の出生年分布

#### ——多数を占める40～60歳台の議員たち——

2024年国会議員の出生年分布は、表12-2に示すとおりである。国会議員全体では1940年代生まれが8人（国会議員全体の1.4%）、1950年代生まれが52人（同9.0%）、1960年代生まれが164人（同28.3%）、1970年代生まれが195人（同33.6%）、1980年代生まれが78人（同13.4%）、1990年代生まれが36人（同6.2%）、2000年代生まれが1人（同0.2%）、出生年不詳が46人（同7.9%）である。2024年末時点で45～64歳の議員が全体の6割を占めていることがわかる。政党別にみると、福祉正義党においてとくに1960年代生まれの議員の割合が高い（27人、同党議員の50.9%）<sup>11)</sup>。

ちなみに20年前の2004年国会議員の場合、1930年代生まれが34人（2004年国会議員全体の6.1%）、1940年代生まれが170人（同30.5%）、1950年代生

11) 福祉正義党では、2019年国会議員においても1960年代生まれの議員の割合が他党に比べて高かった。その理由としては、福祉正義党の堅実な党幹部昇進システムがあると考えられる。詳細は森下（2020）を参照。

まれが181人（同32.4%）、1960年代生まれが141人（同25.3%）、1970年代生まれが31人（同5.6%）、1980年代生まれが1人（同0.2%）であった（森下2007）。2004年末時点で45～64歳の議員が約6割を占めており、20年後も多数派を形成する年齢層が変化していないことが確認できる。次節で述べる国会議員歴の特徴と合わせて考えると、インドネシアでは総選挙のたびに一定数の古参議員が去り、一定数の初当選者が国会入りする「新陳代謝」が行われていることがわかる。

## 2 初当選者の特徴

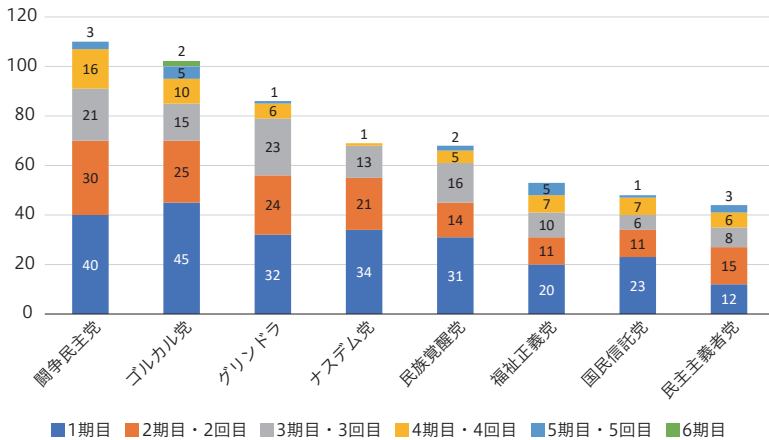
では2024年総選挙を通して新たに国会入りした初当選者とは、一体どういった人たちなのか。まず初当選者の人数を確認しよう。2024年国会議員の国会議員歴をみると、初当選者が最も多く、237人である（国会議員全体の40.9%）。次に多いのが2期目もしくは2回目<sup>12)</sup>の議員（151人、国会議員全体の26.0%）であり、その次に3期目もしくは3回目の議員（112人、同19.3%）が続く。2期目と3期目の議員は、ジョコウィ第1期政権もしくは第2期政権下の国会を経験した人々である。また、どの政党にもスシロ・バンバン・ユドヨノ政権以前の国会経験者（4期以上）がいるが、そうした比較的古参の議員は全体でおよそ80人（国会議員全体の約13.8%）にすぎない（図12-2）<sup>13)</sup>。以下では、2024年国会議員の約4割を占める初当選者に焦点を当て、彼・彼女らの社会的属性をみていこう<sup>14)</sup>。

---

12) 「2回目の議員」とは、前回の2019年総選挙では当選していないが、過去に一度国会議員を経験した者を指す。

13) 国会議員歴にみられる2024年国会議員の特徴は、2019年国会議員の特徴と共通している。2019年国会議員においては、初当選者が243人（2019年国会議員全体の42.3%）、2期目・2回目の議員が200人（同34.8%）、3期目・3回目の議員が94人（同16.3%）、4期目・4回目の議員が34人（同5.9%）、5期目の議員が4人（同0.7%）であった（森下2020）。

図12-2 2024年国会議員の国会議員歴



(出所)筆者作成の2024年国会議員データベースを基に作成。

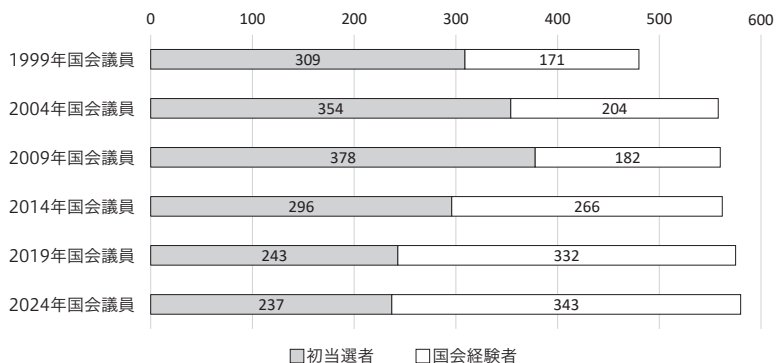
## 2-1. 過去最少の国会初当選者数

2024年総選挙の国会初当選者についてまず押さえておくべき点は、今回の総選挙の初当選者数は民主化後に実施された総選挙のなかで最も少ないということである。初当選者の人数は2009年総選挙時が最も多く、2014年総選挙以降は減少傾向に転じている(図12-3)。前回の2019年総選挙の初当選者数(243人)と比べても、今回の総選挙の初当選者数(237人)は6人少ない。先ほど述べた国会議員歴の特徴と合わせて考えると、インドネシアの総選挙では2期目・3期目の国会議員が再選するケースが増えつつあり、他方で初当選者は今後も徐々に減少する可能性が高いと考えられる。

14) 初当選者に関する国家間比較は本章の範疇外であるが、参考までに、日本の2024年の衆議院選挙における初当選者は99人(当選者全体の21.3%)であった。なお、日本の現行憲法下で最初の衆議院選挙が実施された1949年以来、これまでに実施された衆議院選挙における初当選者の割合は平均すると約2割である(『日本経済新聞』2021年4月13日付)。また、インドネシアの隣国マレーシアの2022年総選挙における国会初当選者は89人(当選者全体の40.1%)であった(列国議会同盟IPUの議会データベースを参照)。

<https://data.ipu.org/parliament/MY/MY-LC01/election/MY-LC01-E20221119/>

図12-3 国会議員における初当選者数と国会経験者数の変遷(1999~2024年)



(出所)筆者作成の2019-2024年国会議員データベースを基に作成。

## 2-2. 初当選者の割合が高い選挙区と低い選挙区

2024年国会初当選者には地域的分布に特徴がみられる。各選挙区の配分議席数の3分の2以上を初当選者が占める選挙区は、全84選挙区のうち12選挙区のみである。具体的には、スマトラ島の4選挙区(リアウ州1区・2区, リアウ群島州, ベンクル州), ジャワ島の2選挙区(西ジャワ州10区, バンテン州2区), パプアの4選挙区(パプア州, 西パプア州, 南パプア州, 中パプア州), そして西ヌサトゥンガラ州1区, 南カリマンタン州2区である。パプア地域の場合は新州分立により新たな選挙区が生まれたため、初当選者の割合は当然高くなるだろう。その他の8選挙区については、おそらく候補者選定や票の動員をめぐる政治アクター間の競争が激しく、その結果、国会議員候補者や当選者の顔ぶれが大きく変わったと考えられる。とくにスマトラ島のリアウ州とリアウ群島州において政治変動が起きている可能性がある。

他方、初当選者の割合が低い選挙区にも地域的偏りがある。各選挙区の配分議席数の8割以上が国会議員経験者である選挙区は9選挙区あり、その多くがジャワ島に集中している。内訳は、ジャワ島の7選挙区(ジャカルタ1区, 西ジャワ7区・8区, 中ジャワ州2区・5区・7区, 東ジャワ州3区), 東ヌサトゥンガラ州1区, 西カリマンタン州1区である。東ヌサトゥンガラ州1区については当選

者全員が国会議員経験者である。これらの選挙区では、おそらく地方の政治権力構造がすでにある程度安定しており、今回の総選挙では、少なくとも国会議員選挙においては候補者選定や票の動員をめぐって政治アクター間の競争がほぼみられなかったのではないかと考えられる。しかし各選挙区の国会初当選者の割合と地方の政治権力構造の安定度が実際に関連しているかどうかについては、さらなる調査・分析が必要である。ここでは仮説として提示しておくにとどめたい。

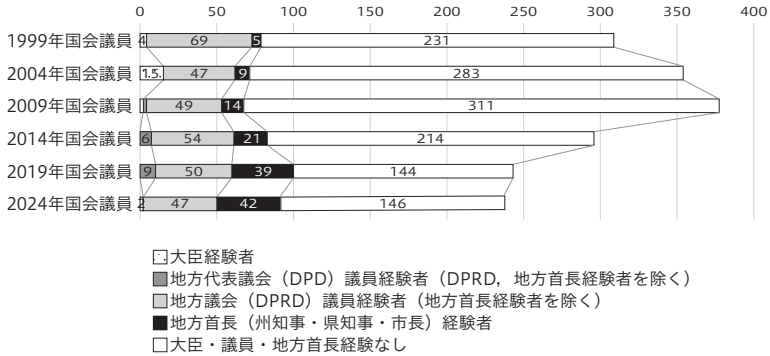
### 2-3. 初当選者はどういった人々か

2024年総選挙の国会初当選者237人は一体どういった社会的属性をもつ人々なのだろうか。結論からいえば、初当選者の約4割がもともと地方政治アクター（正副地方首長、地方議員）である。また、中央・地方での政治経歴（大臣、正副地方首長、地方議員）がない場合でも、少なくともそのうちの2割は中央・地方政治エリートの三親等以内の親族である。以下に詳しくみていこう。

まずは初当選者の政治経歴である。2024年国会初当選者237人のうち、大臣経験者は2人、地方議会経験者（地方首長経験者を除く）は47人、地方首長（州知事、県知事、市長）経験者は42人、副首長（副州知事、副県知事、副市長）経験者は6人いる。過去の総選挙の国会初当選者と比較すると、とくに地方首長経験者が年々増加していることがわかる（図12-4）。また政党別にみると、地方首長経験者はゴルカル党（14人）、闘争民主党（9人）、ナスデム党（6人）に多い（図12-5）。

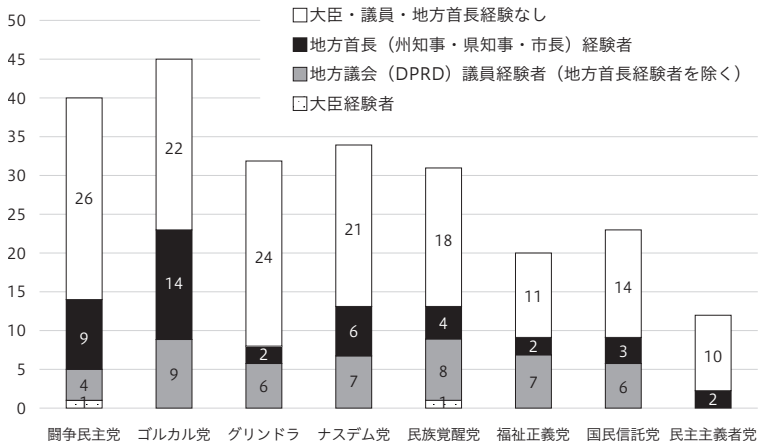
また、上記の政治経歴をもたない初当選者は140人いるが、そのうちの少なくとも10人が中央政治エリート（歴代の正副大統領、大臣、政党党首）の親族、20人が地方首長経験者の親族である。こうした中央・地方政治エリートのファミリーメンバーは、とくに闘争民主党（8人）、ゴルカル党（8人）、グリンドラ党（4人）、ナスデム党（4人）といった世俗系政党に多い<sup>15)</sup>。地方政治エリートやその親族の国会入りは2009年総選挙からみられる特徴であるが（森下2010；2020）、その傾向は現在も続いており、規模が拡大している。また2024国会初当選者には、現役もしくは元国会議員の親族も7人いる<sup>16)</sup>。

図12-4 国会初当選者の政治経歴(1999~2024年)



(出所)筆者作成の2019-2024年国会議員データベースを基に作成。

図12-5 2024年総選挙の国会初当選者(237人)の政治活動歴(政党別)



(出所)筆者作成の2024年国会議員データベースを基に作成。

- 筆者作成の2024年国会議員データベースに基づく。なお、世俗系政党の初当選者に地方首长経験者や中央・地方政治エリートの親族が多い理由は、おそらく世俗系政党では国会議員候補の選定にあたって、イスラーム政党ほどには党に関連する社会団体・組織での活動歴を問わないことが背景にあると考えられる。詳細は森下(2020)を参照。
- 現役もしくは元国会議員の親族のうち、1人は地方議員経験者であるが、残りの6人は過去に中央・地方政界での政治経歴をもたない。インドネシアにおいて世襲議員が登場しつつあることが分かる。

では議員本人やその親族が政治経歴をもたない初当選者には、どういった特徴がみられるのだろうか。該当する104人の職歴は、経済界関係者が少なくとも46人（実業家30人，企業幹部1人，企業監査役11人，会社員4人），芸能人が9人，大学教員が5人，大臣特別補佐官が3人，メディア関係者が2人である<sup>17)</sup>。経済界関係者のほかには芸能人の国会入りが目立つ。2024年国会議員全体で芸能界出身者は21人いるが，そのうちの約半数が初当選者である。芸能人の国会初当選者はジャワ島の都市部を含む選挙区に多くみられ，各政党が都市部の浮動票を取り込むために，知名度をもつ芸能人を国会議員候補に起用したケースが多いと考えられる<sup>18)</sup>。

### 3 国会の2大勢力——経済界関係者と地方政界関係者——

前節では初当選者の顔ぶれとして（1）地方政界出身者，（2）中央・地方政治エリートの親族，（3）経済界関係者を挙げたが，これらの特徴は2024年国会議員全体にも当てはまる。すなわち，本節で詳述するように，初当選者だけでなく2期目以上の国会議員のなかにも地方政界出身者や中央・地方政治エリートの親族，経済界関係者が相当数いるということである。

しかし，こうした特徴は今回の2024年総選挙に限った傾向ではない。経済界関係者による多数派の形成はすでに1999年国会議員にもみられ，また2009年総選挙では，大統領や州知事の一親等内の親族が少数ながら国会入りするようになった（森下 2007; 2010）。さらに総選挙を重ねるにつれ元地方首長たちの国会進出が既定路線化し，その親族の国会入りも徐々に増加した。その結果，

17) 筆者作成の2024年国会議員データベースに基づく。なお，複数の職業経験をもつ議員がいるため，該当人数には重複がある。

18) 議員本人やその親族が政治経歴をもたない国会初当選者のうち芸能界出身の議員9人は，それぞれリアウ州1区（州都プカンパルを含む），首都ジャカルタ2区（2人），西ジャワ州1区（バンドゥン市を含む）・2区（バンドゥン県を含む）・7区（ジャカルタ近郊のプカシ県を含む），中ジャワ州6区（マゲラン市を含む），東ジャワ州1区（スラバヤ市を含む）・3区（ジャワ最東部のパニユワンギ県を含む）から出馬し当選している。

2019年総選挙では経済界関係者と地方政界関係者が国会の二大勢力を形成するに至った（森下 2020）。この傾向は2024年総選挙でも継続してみられる。さらに今回の総選挙では、地方の有力政治家一族（political family）<sup>19)</sup>のメンバーが国会に進出する事例がこれまで以上に目立つようになった。以下、詳しくみていこう。

### 3-1. 2024年国会議員の職業的背景 ——失われた職業的多様性——

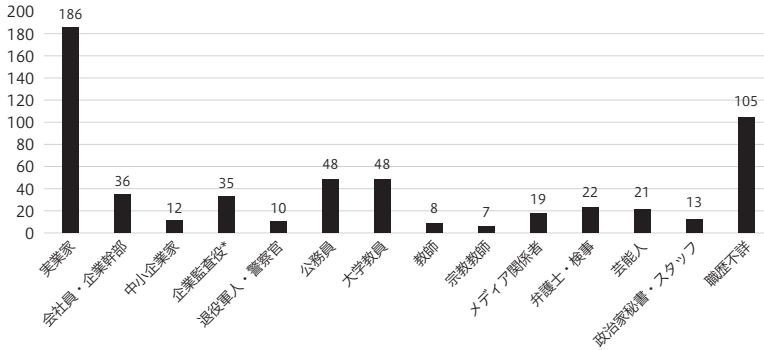
2024年国会議員の職歴をみると、少なくとも269人（2024年国会議員全体の46.4%）が経済界関係者（実業家186人、会社員・企業幹部36人、中小企業家12人、企業監査役35人）であり、圧倒的多数を占めていることがわかる。次に多いのが大学教員48人（2024年国会議員全体の8.3%）、公務員48人（同8.3%）、弁護士・検事22人（同3.8%）、芸能人21人（同3.6%）、メディア関係者19人（同3.3%）、教師・宗教教師15人（同2.6%）、政治家秘書・スタッフ13人（同2.2%）、退役軍人・警察官10人（同1.7%）である（図12-6）。

すでに述べたように、経済界関係者が国会の多数派を形成するという特徴は、民主化後に初めて実施された1999年総選挙の時からみられた傾向である。しかし、図12-7に示すように、1999年国会議員においては経済界関係者以外の職歴をもつ国会議員も多く、議員の職業的背景には多様性がみられた。たとえば1999年国会議員には少なくとも教師が115人、大学教員が100人、公務員

---

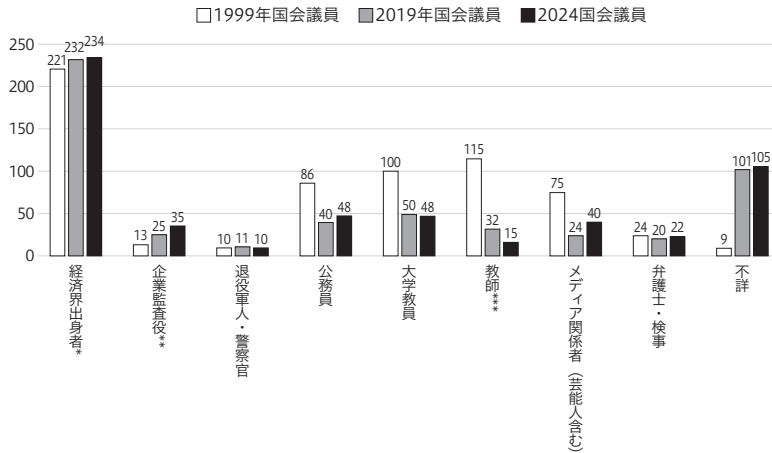
19) 本章で述べる政治家一族とは、プラボウォ新政権発足の2024年10月時点で「現職もしくは元正副大統領あるいは大臣、政党党首、正副地方首長の三親等以内の親族（血族および姻族）に、現役の国会議員もしくは地方代表議会議員、正副地方首長、地方議会議員が2人以上含まれる場合」を指す。これはインドネシアの法律上の政治王国（political dynasty）の定義を参考にしたものである。岡本（2019）は東南アジアの政治王国の概念について議論するなかで、インドネシアの地方首長公選制に関する法律2015年第8号の第7条f項における注釈を紹介している。すなわち「現職と利益相反しないものとは、現職と血縁関係、姻戚関係にないか、または、三親等に当たらないものことであり、父親、母親、義理の父親、叔父叔母、兄弟姉妹、義理の兄弟姉妹、娘息子、嫁、娘婿以外のものである」（岡本 2019, 39）。なお、この条項は憲法裁判所が人権違反であるとの判決を出したため同法から削除された。

図12-6 2024年国会議員の職業的背景(重複あり)



(注)\* 実業家, 会社員・企業幹部, 中小企業家を除く。  
 (出所)筆者作成の2024年国会議員データベースを基に作成。

図12-7 1999年国会議員, 2019年国会議員, 2024年国会議員の職業的背景(重複あり)



(注1)\* 実業家, 会社員・企業幹部, 中小企業経営者を含む。  
 (注2)\*\* 経済界出身者は含まない。  
 (注3)\*\*\* 公立学校の教師とプサントレンなどのイスラーム学校の教師を含む。  
 (出所)森下(2007)および筆者作成の2019~2024年国会議員データベースを基に作成。

が86人、メディア関係者が75人いた。他方、2019年国会議員と2024年国会議員では経済界関係者以外の職歴をもつ国会議員数が大幅に減少している。

2019・2024年国会議員には職歴不詳者がそれぞれ101人、105人いるが、その多くは経済界関係者であるとみられ、実際の経済界関係者は1999年国会議員よりはるかに多いと考えられる<sup>20)</sup>。

国会議員の職業的多様性が減少し、経済界関係者が益々増えている理由としては、選挙運動（違法な買票行為を含む）にかなりの費用がかかることが要因であると考えられる<sup>21)</sup>。もちろん選挙資金が潤沢でなくても地元での知名度や地道な選挙活動、組織的・社会的ネットワークなどを利用して票を集める候補者もいる。しかし今日の国会議員の顔ぶれをみれば、そうしたタイプの国会議員は少数派であることがわかるだろう。

### 3-2. 2024年国会議員の政治経歴

#### ——既定路線になった元地方首長たちの国会進出——

つぎに、2024年国会議員の政治経歴に注目すると、とくに地方政界出身者が多いことがわかる。図12-8に示すように、地方議員経験者（正副地方首長経験者を除く）が少なくとも102人（2024年国会議員全体の17.6%）、地方首長経験者が72人（同12.4%）、副地方首長経験者が15人（同2.6%）おり、さらには正副地方首長経験者の親族が42人（同7.2%）いる。すなわち親族を含めれば、2024年国会議員のうち少なくとも231人（同39.8%）が地方政界関係者ということになる。他方、過去に大臣もしくは副大臣を経験した国会議員（地方政界出身者を除く）は7人（2024年国会議員全体の1.2%）、中央政治エリート（現職あるいは元正副大統領、大臣、政党党首）の親族は28人（同4.8%）いる。

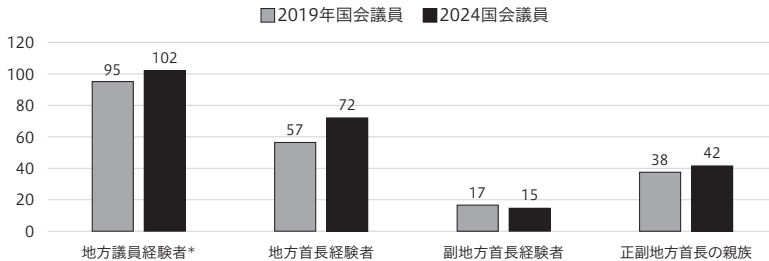
なお、2019年国会議員においても地方政界関係者の割合は約35.0%と高か

---

20) インドネシア汚職ウォッチの調査によると、2019年国会議員のうち実業家は318人（2019年国会議員全体の55.3%）、2024年国会議員のうち実業家およびビジネス関係者は354人（2024年国会議員全体の61.0%）いるという（Tempo 2024）。

21) たとえば民族覚醒党のムハイミン・イスカンダル党首は、ジャカルタの選挙区の国会議員候補者の場合、当選するには選挙資金として400億ルピア（約3.7億円）が必要だと述べている（CNN Indonesia 2023）。

図12-8 2019年国会議員と2024年国会議員のなかの地方政界関係者(家族・親族を含む)



(注)\* 正副地方首長経験者を除く。

(出所)筆者作成の2019～2024年国会議員データベースを基に作成。

った。その内訳は、地方議員経験者（正副地方首長経験者を除く）が少なくとも95人、地方首長経験者が57人、副地方首長経験者が17人、正副地方首長の親族が38人であった（図12-8）。2024年国会議員と2019年国会議員を比べると、国会入りした地方政界関係者のなかでも地方首長経験者の増加率が最も高い。今回の総選挙では地方首長経験者が前回よりも15人増加した。初当選者数は全体として年々減少傾向にあるが、地方首長経験者の人数は増加傾向にあることから、今後も総選挙のたびに地方首長経験者の国会入りが増えると予想される。

ではなぜ、元地方首長たちは国会入りをめざすのか。おそらくその目的は、中央政界に権力基盤を築きたいからというよりも、地方政界での権力基盤をさらに強化することにある。その背景には、地方首長選挙の制度的制約に対する彼・彼女らの選挙戦略がある。地方首長の任期は最長で2期10年であるが、1期目を終えた現職が再選するとは限らない。また再選しても2期目が終われば再出馬できない。そのため、再選できなかった地方首長や2期目を終えた地方首長たちは、いったん国会議員のポストを獲得することで新たな政治資源を獲得し、次回首長選挙に本人もしくは親族が出馬するための準備を進めていると考えられる。詳細は後述するが、国会議員ポストを通して得られる政治資源には、中央政府からの住民支援品、中央省庁の政策や取組みに関する情報、中央政財界とのネットワーク、国会議員として地元に貢献することで得られる知名

度の向上などがある。これらの資源を上手く活用することで、次回首長選挙に向けて支持基盤を強化・拡大することができる。

また地方首長本人ではなく親族が国会入りする場合も、地元での権力基盤をさらに強化することが第一の目的であると考えられる。また元地方首長やその親族の職業的背景が地方実業家である場合には、地元での権力基盤強化だけでなく、中央政財界とのネットワークを通してビジネスを拡大することも重要な目的であると考えられる<sup>22)</sup>。

### 3-3. 国会議員を輩出する中央・地方の政治家一族

さて、2024年国会議員には中央政治エリート（現職あるいは元正副大統領、大臣、政党党首）の親族が28人、正副地方首長経験者の親族が少なくとも42人いると述べたが、そのなかには、本人を含め三親等以内の親族に中央・地方政治エリートが3人以上いる国会議員が存在する。この条件に当てはまる国会議員を政治家一族のメンバーと捉えると、今日のインドネシア国会には一体どれほどの数の政治家一族がいるのだろうか。

なお、本章で用いる政治家一族の定義は、脚注19) に示したとおり、プラボウォ政権が発足した2024年10月時点で「現職もしくは元正副大統領あるいは大臣、政党党首、正副地方首長の三親等以内の親族に、現役の中央・地方政治アクター（国会議員、地方代表議会議員、正副地方首長、地方議会議員など）が2人以上含まれる場合」とする。

2024年国会議員のなかに、上記の条件に当てはまる中央政治家一族は少なくとも10ファミリー、地方政治家一族は少なくとも13ファミリーいる。まず中央政治家一族については、メガワティ・スカルノプトゥリ元大統領・闘争民主党政党党首、アブドゥルラフマン・ワヒド元大統領、ユドヨノ元大統領、故BJ・ハビビ元大統領、プラボウォ大統領、ギナンジャール・カルタサスミタ元経済・

---

22) 元地方首長もしくはその親族であり、かつ職業的背景が実業家である2024年国会議員は少なくとも34人いる。ちなみに地方政界関係者（元地方議員、元正副地方首長およびその親族）全体では、職業的背景が経済界関係者である議員は少なくとも79人（実業家57人、中小企業家4人、企業幹部1人、会社員11人、企業監査役6人）いる。

金融・産業担当調整大臣、アンディ・アムラン・スライマン農業大臣、ズルキフリ・ハッサン食糧担当調整大臣・国民信託党党首、ムハイミン・イスカンダル社会エンパワーメント担当調整大臣・民族覚醒党党首、ナスデム党党首スルヤ・パロの一族が該当する(表12-3)。

さらに、こうした中央政治家一族のなかには、国会議員や大臣を輩出するだけでなく、地方首長ポストを通して地方政界にも影響力をもつファミリーがいる。具体的には、ゴロンタロ正副州知事を輩出する故ハビビ大統領の一族、南スラウェシ州知事を擁するアムラン農業大臣の一族、ベンクル州知事を擁するズルキフリ・ハッサン食糧担当調整大臣・国民信託党党首の一族である。中央政界にも地方政界にも権力基盤をもつ政治家一族といえる。

国会議員を擁する地方政治家一族(現職もしくは元正副地方首長の三親等以内の親族に、現役の国会議員と地方政治アクターが計2人以上含まれる場合)については、表12-4に示すとおりである。資料の限界により家族的背景が明らかではない国会議員もいるため、実際には表12-4に挙げた13ファミリーよりも多くの地方政治家一族が国会に親族を送り込んでいる可能性がある。

地域別にみると、一部の例外を除いて、国会議員を擁する地方政治家一族はとくにジャワ島以外の地域(外島)に多い。具体的には、北スマトラ州(3ファミリー)、バンテン州(2ファミリー)、中カリマンタン州(2ファミリー)、北マルク州(2ファミリー)である。これらの州には、地方政治家一族の形成や一族の政治権力の維持・拡大、そして国会進出を促すような独特の社会・経済・政治的土壌があるのかもしれない。仮説として考えられる要因のひとつは、これらの州では複数の有力な地方政治家一族が地方首長ポストをめぐる競争合しているということである。以下の事例にみるように、国会議員ポストは地方権力闘争において重要な政治資源となり得る。しかし地方政治家一族の地域的特徴を明らかにするには、大規模な自治体間比較調査と緻密な分析が必要となるため、詳細については今後の課題としたい。

表12-3 2024年国会議員を輩出する中央政治家一族

メガワティ元大統領・闘争民主党党首の一族	
Puan Maharani(娘)	闘争民主党国会議員 (4期目), 国会議長 (2019-現在)
Puti Guntur Soekarno(姪)	闘争民主党国会議員 (4期目)
Hendra Rahtomo(甥)	闘争民主党国会議員 (初当選)
Giri Ramanda N Kiemas(義甥)	闘争民主党国会議員 (初当選), 元南スマトラ州議会議員 (2014-2024)
Diah Pikatan O Putri Haprani(孫)	闘争民主党国会議員 (初当選)
ワヒド元大統領の一族	
Dipo Nusantara Pua Upa(義甥)	民族覚醒党国会議員 (2期目), 元ワヒド大統領スタッフ
Irsyad Yusuf(甥)	民族覚醒党国会議員 (初当選), 元Pasuruan県知事 (2013-2023)
Mochamad Irfan Yusuf(従弟)	グリンドラ党国会議員 (初当選)
ユドヨノ元大統領の一族	
Edhie Baskoro Yudhoyono(息子)	民主主義者党国会議員 (4期目)
Bramantyo Suwondo(義甥)	民主主義者党国会議員 (2期目)
Agus Harimurti Yudhoyono(息子)	インフラ・地域開発担当調整大臣 (2024-現在), 民主主義者党党首 (2020-現在)
故ハビビ元大統領の一族	
Rusli Habibie(甥)	ゴルカル党国会議員 (初当選), 元ゴロンタロ州知事 (2012-2022)
Idah Syahidah(義姪)	元ゴルカル党国会議員 (2019-2024), ゴロンタロ州副州知事 (2025-現在)
プラボウォ大統領の一族	
G. Budi Djiwandono(甥)	グリンドラ党国会議員 (3期目)
Rahayu Saraswati Djojohadikusumo(姪)	グリンドラ党国会議員 (2回目)
Siti Hediati Soeharto(元妻)	グリンドラ党国会議員 (2回目)
Aryo Djojohadikusumo(甥)	元グリンドラ党国会議員 (2014-2019)
Thomas Djiwandono(甥)	財務副大臣 (2024-現在), グリンドラ党会計責任者 (2014-現在)
ギナンジャール元経済・金融・産業担当調整大臣の一族	
Galih Dimuntur Kartasasmita(息子)	ゴルカル党国会議員 (初当選)
Agus Gumiwang Kartasasmita(息子)	工業大臣 (2019-現在)
アンディ・アムラン・スライマン農業大臣の一族	
Andi Amar Ma'ruf Sulaiman(息子)	グリンドラ党国会議員 (初当選)
Andi Sudirman Sulaiman(弟)	南スラウェシ州知事 (2022-2023, 2025-現在)
ズルキフリ・ハッサン食糧担当調整大臣・国民信託党党首の一族	
Putri Zulkifli Hasan(娘)	国民信託党国会議員 (初当選)
Helmi Hasan(弟)	ブンクルー州知事 (2025-現在), 元ブンクルー副市長 (2018-2023)
Zita Anjani(娘)	国民信託党ジャカルタ特別州議会議員 (2期目)
Ahmad Mumtaz Rais(元娘婿)	アミン・ライスの息子, 元国民信託党国会議員 (2009-2014)
Zumi Zola(娘婿)	元ジャンビ州知事 (2016-2019)
Zainudin Hasan(弟)	元南ランブン県知事 (2016-2018)
ムハイミン・イスカンダル社会エンパワーメント担当調整大臣・民族覚醒党党首の一族	
Rivky Abdul Halim(甥)	民族覚醒党国会議員 (初当選)
Abdul Halim Iskandar(兄)	民族覚醒党国会議員 (初当選), 元村落・後発地域開発・移住大臣 (2019-2024)
ナスデム党党首スルヤ・パロの一族	
Prananda Surya Paloh(息子)	ナスデム党国会議員 (3期目)
Irsan Sosiawan(甥)	ナスデム党国会議員 (初当選)
Nova Harivan Paloh(甥)	ナスデム党ジャカルタ特別州議会議員 (2期目)

(出所)筆者作成の2024年国会議員データベースを基に作成。

表12-4 2024年国会議員を輩出する地方政治家一族

アチェ州：テウク・ズルカルナイニ元ナガンラヤ県知事の一族 (Mahdi, Hasan and Izwar 2018)	
Teuku Zulkarnaini(本人)	ゴルカル党国会議員 (初当選)、元ナガンラヤ県知事 (2007-2012, 2013-2017)、元ナガンラヤ県知事代行 (2002-2007)、元ゴルカル党ナガンラヤ県支部長 (2010-2020)
Teuku Raja Keumangan(弟)	ナガンラヤ県知事 (2025-現在)、 ゴルカル党アチェ州議会議員 (2019-2024, 副議長2022-2024)
Kelimah(妻)	元ゴルカル党ナガンラヤ県議会議員 (2014-2019, 議長2012-2017)
Said Syahrul Rahmat(娘婿)	ゴルカル党ナガンラヤ県議会議員 (2024-現在, 副議長2024-現在)
故Teuku Raja Azman(父)	元ゴルカル党アチェ州議会議員 (1971-1981)
故Habib Qudrat(叔父)	元ゴルカル党西アチェ県議会議員 (1971-1975)
北スマトラ州：アシャリ・タンブナン元デリスルダン県知事の一族	
Ashari Tambunan(本人)	民族覚醒党国会議員 (初当選)、元デリスルダン県知事 (2014-2019, 2019-2023)
Adlin Umar Yusti Tambunan(息子)	スルダンベダガイ副県知事 (2021-2024, 2025-現在)、 元ゴルカル党メダン市議会議員 (2014-2019)
Asri Ludin Tambunan(甥)	デリスルダン県知事 (2025-現在)
故Amri Tambunan(兄)	元デリスルダン県知事 (2004-2009, 2009-2014)
故Djameluddin Tambunan(父)	元ゴルカル党国会議員 (1982-1987)、ジャンビ州知事 (1974-1979)、 元北スマトラ州官房長 (1973)
北スマトラ州：カイルディン・シャ・シトルス元北ラプハンバトゥ県知事の一族	
Khairuddin Syah Sitorus(本人)	元北ラプハンバトゥ県知事 (2016-2021)、元北スマトラ州議会議員 (2009-2010, 政党不詳)、 元ラプハンバトゥ県議会議員 (2004-2009, 政党不詳)
Hendri Yanto Sitorus(息子)	北ラプハンバトゥ県知事 (2021-2024, 2025-現在)、 元ゴルカル党北ラプハンバトゥ県議会議員 (2014-2020)
Trinovi Khairani(娘)	ゴルカル党国会議員 (初当選)
Erni Ariyanti(娘)	ゴルカル党北スマトラ州議会議員 (2期目, 議長2024-現在)
北スマトラ州：ゴグサ・シテプ元ランカット県知事の一族	
Ngogesa Sitepu(本人)	元ランカット県知事 (2009-2014, 2014-2019)
Ryzky Yunanda Sitepu(息子)	ピンジャヤ市長代行 (2024-2025)、元ピンジャヤ副市長 (2021-2024)、 元ゴルカル党北スマトラ州議会議員 (2019-2021)
Delia Pratiwi Br. Sitepu(娘)	ゴルカル党国会議員 (3期目)
南スマトラ州：マウルディ・ヤフヤ元南スマトラ副州知事の一族	
Mawardi Yahya(本人)	元南スマトラ副州知事 (2018-2023)、元オガンイリル県知事 (2005-2010, 2010-2015)、 元ゴルカル党オガンコメリンイリル県議会議員 (1999-2004)、 元ゴルカル党オガンイリル県議会議長 (2004-2005)
Ridho Yahya(弟)	元プラブムリ市長 (2013-2018, 2018-2023)、元プラブムリ副市長 (2008-2013)
Ahmad Wazir Noviadi(息子)	グリンドラ党国会議員 (初当選)、元オガンイリル県知事 (2016-2017)、 元ゴルカル党オガンイリル県議会議員 (2014-2016)
Panca Wijaya Akbar(息子)	オガンイリル県知事 (2021-2024, 2025-現在)
バンテン州：故ハサン・ソヒブの一族	
故Chasan Shohib(本人)	元PPPSBBI(インドネシアバンテン文化芸術家連合) 総裁 ※ バンテン州の地方ボス。詳細は岡本 (2015) を参照。
Ratu Atut Chosiyah(娘)	元バンテン州知事 (2007-2014)
Ratu Tatu Chasanah(娘)	元セラン県知事 (2016-2021, 2021-2024)、元セラン副県知事 (2010-2015)
Tubagus Chaeri Wardana(息子)	元セラン県議会議副議長 (2009-2014)
Tubagus Haerul Jaman(息子)	ゴルカル党国会議員 (2期目)、元セラン市長 (2011-2018)、元セラン副市長 (2008-2011)
Ratu Ria Maryana(娘)	元ゴルカル党セラン県議会議員副議長 (2019-2024)
Airin Rachmi Diany(養娘)	ゴルカル党国会議員 (初当選)、元南タンゲラン市長 (2011-2016, 2016-2021)
故Hikmat Tomet(娘婿)	元ゴルカル党国会議員 (2009-2013)、元ゴルカル党バンテン州支部長 (2009-2014)
Andika Hazrumy(孫)	元バンテン副州知事 (2017-2022)
Andira Aprilia Hikmat(孫)	元地方代表議会 (DPD) 議員 (2019-2024)
Pilar Saga Ichsan(孫)	南タンゲラン副市長 (2021-2024, 2025-現在)
Tanto Warsono Arban(孫婿)	元パンデグラ副県知事 (2016-2021, 2021-2024)
Adde Rosi Khoerunnisa(孫嫁)	ゴルカル党国会議員 (2期目)、元ゴルカル党バンテン州議会議員 (2014-2019)

(続き)

バンテン州：アフマド・ディムヤティ・ナタクスマ現バンテン副州知事の一族	
Achmad Dimiyati Natakusumah(本人)	バンテン副州知事 (2025-現在), 元福祉正義党国会議員 (2009-2024), 元パンデグラン県知事 (2000-2005, 2005-2009)
Irna Natulita(妻)	元パンデグラン県知事 (2016-2021, 2021-2024), 元開発統一党国会議員 (2009-2016)
Dewi Setiani(妹)	パンデグラン県知事 (2025-現在)
Rizki Aulia Rahman Natakusumah(息子)	民主主義者党国会議員 (2期目)
東ジャワ州：ハサン・アミヌディン元プロボリンゴ県知事の一族	
Hasan Aminuddhin(本人)	元ナスデム党国会議員 (2014-2021), プロボリンゴ県知事 (2003-2008, 2008-2013), 元民族覺醒党プロボリンゴ県議会議員 (1999-2004), 元開発統一党プロボリンゴ県議会議員 (1992-1998)
Puput Tantriana Sari(妻)	元プロボリンゴ県知事 (2013-2018, 2018-2021)
Dini Rahmania(娘)	ナスデム党国会議員 (初当選)
Faisol Riza(従弟)	民主主義者党国会議員 (3期目), 産業副大臣 (2024-現在)
Dhohir Parisi(従弟)	元グリンドラ党国会議員 (2009-2014)
中カリマンタン州：アブドゥル・ラシッドの一族	
Abdul Rasyid(本人)	Citra Borneo Indahグループ会長, 元国民協議会地方代表議員 (1999-2004) ※ 中カリマンタン州西部の地方ボス。詳細は森下 (2015) を参照。
Sugianto Sabran(甥)	元中カリマンタン州知事 (2016-2021, 2021-2025), 元開争民主党国会議員 (2009-2014)
Agustiar Sabran(甥)	元開争民主党国会議員 (2019-2024, 2024-2025*) *2025年より中カリマンタン州知事
Ruslan A.S.(兄)	元カル党中カリマンタン州支部長 (2015-現在)
Nurhidayah(義姉)	西コタワリンギン県知事 (2017-2022, 2025-現在), 元ゴルカル党西コタワリンギン県議会議員 (2004-2016, 副議長 2009-2016)
中カリマンタン州：アグスティン・テラス・ナラン元中カリマンタン州知事の一族	
Agustin Teras Narang(本人)	地方代表議会議員 (2019-2024, 2024-現在), 元中カリマンタン州知事 (2005-2010, 2010-2015), 元開争民主党国会議員 (1999-2004, 2004-2005)
Renhard Atu Narang(兄)	元開争民主党中カリマンタン州議会議長 (2004-2019), 元開争民主党中カリマンタン州支部長 (就任年不詳-2019)
Pudjirustaty Narang(姉)	元プランピサウ県知事 (2021-2023), 元プランピサウ副県知事 (2018-2021)
Aries Marcorius Narang(甥)	元開争民主党バランカラヤ市議会議長 (2004-2009)
Asdy Narang(甥)	ナスデム党中カリマンタン州議会議員 (2024-現在), 元開争民主党国会議員 (2014-2019)
Andina Thesia Narang(姪)	ナスデム党国会議員 (初当選), 元開争民主党中カリマンタン州議会議員 (2014-2023)
西スラウェシ州：スハルディ・ドゥカ現西スラウェシ州知事の一族	
Suhardi Duka(本人)	西スラウェシ州知事 (2025-現在), 元民主主義者党国会議員 (2019-2024), 元マムジュ県知事 (2005-2010, 2010-2015), 元マムジュ県議会議員 (1999-2004, 2004-2005), 副議長1999-2000, 議長2000-2005)
Zulfikar Suhardi(息子)	民主主義者党国会議員 (2024-現在) ※ 本来の当選者Suhardi Dukaが西スラウェシ州知事選挙への出馬に伴い国会議員を辞退したため, 繰り上げ当選。
Siti Sutinah Suhardi(娘)	マムジュ県知事 (2021-2024, 2025-現在)
Siti Suraidah Suhardi(娘)	民主主義者党西スラウェシ州議会議員 (2期目, 議長2019-2024, 副議長2024-現在), 元民主主義者党マムジュ県議会副議長 (2009-2019, 副議長2009-2014, 議長2014-2019)
北マルク州：アブドゥル・ガニ・カスバ元北マルク州知事の一族	
Abdul Ghani Kasuba(本人)	元北マルク州知事 (2014-2019, 2019-2024), 元北マルク副州知事 (2008-2015), 元福祉正義党国会議員 (2004-2008)
Nazlatan Ukhra Kasuba(娘)	グリンドラ党北マルク州議会議員 (初当選)
Muhammad Kasuba(弟)	元南ハルマヘラ県知事 (2005-2010, 2011-2016)
Bahrain Kasuba(甥)	元南ハルマヘラ県知事 (2016-2021), 元福祉正義党南ハルマヘラ県議会議長 (2009-2014)
Hasan Ali Bassam Kasuba(甥)	南ハルマヘラ県知事 (2023-2024, 2025-現在), 元南ハルマヘラ副県知事 (2020-2023)
Izzuddin AlQassam Kasuba(甥)	福祉正義党国会議員 (初当選)
北マルク州：アフマド・ヒダヤット・ムス元スラ諸島県知事の一族	
Ahmad Hidayat Mus(本人)	元スラ諸島県知事 (2005-2010, 2010-2015), 元ゴルカル党スラ諸島議会議長 (2004-2005)
Alion Mus(弟)	元プラウタリアブ県知事 (2016-2021, 2021-2024), 元ゴルカル党プラウタリアブ県議会議長 (2014-2015), 元ゴルカル党北マルク州議会議員 (2009-2014)
Fifan Adeningsih Mus(妹)	スラ諸島県知事 (2021-2024, 2025-現在)
Zainal Mus(妹)	元パンガイクプラウアン県知事 (2017-2022), 元ゴルカル党スラ諸島議会議長 (2009-2014)
Alien Mus(妹)	ゴルカル党国会議員 (2期目), 元ゴルカル党北マルク州議会議員 (2014-2019)
Sashabila Widya L. Mus(娘)	プラウタリアブ県知事 (2025-現在)

(出所)筆者作成の2024年国会議員データベースを基に作成。

## 4

## 地方政治家一族にとっての国会議員ポストのうまみ ——西スラウェシ州の事例——

表12-4に挙げた地方政治家一族の一部についてはすでに先行研究があり、地方での権力獲得・拡大過程が明らかにされている<sup>23)</sup>。ここでは地方政治家一族が国会議員ポストを獲得した後、そこで得た政治資源をどのように活用して地元での政治社会的影響力を強化しようとしているのかを具体的に示したい。

事例として取り上げるのは、西スラウェシ州のスハルディ・ドゥカ現州知事の一族である。スハルディ・ドゥカはもともと西スラウェシ州マムジュ県の県知事(2005~2015年)であり、その後2019年総選挙で国会議員に初当選した。2024年総選挙でも国会議員に再選したが、2024年11月の統一地方首長選挙に出馬するために国会議員を辞退した。スハルディ・ドゥカは西スラウェシ州知事選挙で大勝し、2025年2月から州知事を務めている。スハルディ・ドゥカは一体どのようにして西スラウェシ州知事の座を射止めたのか。なお、国会議員を輩出する地方政治家一族であっても2024年統一地方首長選挙で敗退している場合もある。ゆえにスハルディ・ドゥカの一族は、地元での支持基盤強化に成功した事例といえる。

スハルディ・ドゥカは1962年に西スラウェシ州の州都があるマムジュ県に生まれ、もともとは同県の公務員であった。妻ハルシナとの間には7人の子どもがいる。スハルト政権期にマムジュ県議会議員(1997~1999年)を務め、民主化後はゴルカル党所属のマムジュ県議会議員として副議長(1999~2000年)や議長(2000~2005年)を歴任した。また2005年には全国規模の暴力組織パンチャシラ青年団の西スラウェシ州支部長に就任し、2025年1月現在も

23) たとえばアチェ州ナガン・ラヤ県のテウク・ズルカルナイニ元県知事の一族についてはMahdi, Hasan and Izwar(2018), バンテン州の地方ボスであった故ハサン・ソヒブの一族やアフマド・ディムヤティ・ナタクスマ現バンテン副州知事の一族については岡本(2015), Yusdinur and Pattinasarany(2024), 森下(2020)など、中カリマンタン州の実業家アブドゥル・ラシッドの一族およびアグスティン・テラス・ナラン元中カリマンタン州知事の一族については森下(2015)を参照。

その地位にいる。

スハルディ・ドゥカは2005年のmamジュ県知事選挙で県知事に初当選し、その後県知事を2期務めた。彼はゴルカル党mamジュ県支部長(2008~2012年)であったが、次女のシティ・スライダ・スハルディ(1986年生まれ)は2006年に民主主義者党に入党した。スライダは2007年に民主主義者党mamジュ県支部長に就任し、2009年総選挙ではmamジュ県議会議員に当選して県議会副議長に選出された。スハルディ・ドゥカ自身も2012年にゴルカル党から民主主義者党に鞍替えし、民主主義者党西スラウェシ州支部長に就任した。なお、スライダは2014年総選挙でもmamジュ県議会議員に再選し、県議会議長に就任している<sup>24)</sup>。

スハルディ・ドゥカの県知事2期目の任期は2015年までであった。彼は2017年に西スラウェシ州知事選挙に出馬したが、約4000票の僅差でアリ・パール・マスダル候補に敗れた<sup>25)</sup>。州知事選に敗れたスハルディ・ドゥカは国会入りをめざし、2019年総選挙で民主主義者党から国会議員選挙に出馬、6万4817票を獲得して当選を果たした。また、それまで県議会議員であった次女のスライダは、2019年総選挙で西スラウェシ州議会議員に当選し、州議会議長に就任した。さらに2020年のmamジュ県知事選挙では、長女のシティ・スティナ・スハルディ(1984年生まれ)が県知事候補として出馬し、7万6627票を獲得して県知事に当選した。mamジュ県知事選挙には現職の正副県知事ペアも出馬していたが、彼らの得票数は6万7029票であり、当選したスティナとの得票差は1万票近くあった(Liputan6.com 2020)。こうして、スハルディ・ドゥカの一族は2019年から2020年の間に、国会と州議会へのアクセス、そしてmamジュ県での権力基盤を手に入れた。

---

24) 本節のスハルディ・ドゥカおよびその一族のプロフィールについては、筆者作成の2024年国会議員データベースに基づく。

25) スハルディ・ドゥカの得票数は24万10票であった。ちなみに2017年の州知事選を制したアリ・パール・マスダルの一族も西スラウェシ州の政治家一族である。アリ・パール・マスダルはボルワリ・マンダル県知事(2004~2014年)、西スラウェシ州知事(2017~2022年)を歴任し、妻は元グリンドラ党国会議員(2014~2024年)、弟は元ボルワリ・マンダル県知事(2014~2024年)である。

さて、2019年総選挙で初めて国会議員となったスハルディ・ドゥカは、国会の第4委員会（農業、環境・林業、海洋・漁業関係）に配属された。彼は国会や同委員会で積極的に発言するだけでなく、国会閉会中には地元西スラウェシ州に精力的に足を運んだ。たとえば、長女のスティナが県知事を務めるマムジュ県を中心に各県の農村や漁村を訪問し、中央政府（おもに農業省や海洋・漁業省）からの村落支援品である農業機器や苗木、有機肥料、9品目の基本食料品（sembako）などを村々に分配した。また海洋・漁業省や環境・林業省の役人とともに各種住民説明会（sosialisasi）も開催している<sup>26)</sup>。

スハルディ・ドゥカは個人でも寄付を行い、また国会議員として各地の農村を公式訪問して村民との田植え活動や村民対話を実施した。マムジュ県で開催された田植えイベントでは、スハルディ・ドゥカの娘たち（マムジュ県知事スティナ、州議会議長スライダ）や州知事代行のバハティアル・バハルディンも参加した（DPRD Sulawesi Barat 2024）。

さらにスハルディ・ドゥカは、中央政界のトップ・エリートであるアグス・ハリムルティ・ユドヨノ民主主義者党党首やグリンドラ党所属(当時)のエディ・プラボウォ海洋・漁業大臣（2019～2020年）の西スラウェシ州訪問も実現させた（TeropongSenayan 2020a）。2022年に行われた四女シティ・スルフィア・スハルディの結婚式では、ナスデム党所属のシャフリル・ヤシン・リンポ農業大臣（2019～2023年）が証人を務めている（Katinting.com 2022）。こうした活動や住民説明会等でのスピーチを通して、スハルディ・ドゥカは自身が国会議員として中央政界にパイプをもつこと、中央政府に働きかけて地元の発展のために尽力していることを州民に目にみえる形で示し、今後も州民の声を中央政府に届けることを約束した。

2024年2月の総選挙を迎え、スハルディ・ドゥカは息子のズルフィカル・スハルディ（1998年生まれ）とともに民主主義者党から国会議員選挙に出馬し、8万5420票を獲得して国会議員に再選した。息子ズルフィカルの得票数は1万

---

26) スハルディ・ドゥカの国会議員活動については、インドネシア・サイバーメディア協会登録の西スラウェシ州に関するオンラインメディアKatinting.com(2023a; 2023b; 2024)や国会議員の動向を伝えるTeropongSenayan(2020b)などを参照した。

1593票しかなかったが、西スラウェシ州選挙区の民主主義者党国会議員候補のなかでは第2位の得票数であった (Disway.id 2024)。そのため、スハルディ・ドゥカが州知事選に出馬するため国会議員就任を辞退した際、息子のズルフィカルが国会議員に繰上げ当選することになった。一族による国会へのアクセスを維持する戦略が成功したといえる。また2024年総選挙では次女のスライダも州議会議員に再選し、一族による州議会へのアクセスも維持された。

以上のように、スハルディ・ドゥカは周到に準備を重ねた上で、2024年11月の統一地方首長選挙において西スラウェシ州知事選に出馬した。同州知事選では4組の正副州知事候補者ペアが出馬し、グリンドラ党などが支持するアリ・パール・マスダル前州知事、闘争民主党が支持するフサイン・シャム（マカッサル国立大学教授）、さらに前州知事の弟アンディ・イブラヒム・マスダルが民族覚醒党の支持を受けて立候補していた<sup>27)</sup>。スハルディ・ドゥカは民主主義者党のほかにナスデム党や福祉正義党など7政党から支持を受けた。投票の結果、スハルディ・ドゥカは33万7512票（得票率46.2%）を獲得して当選を果たした<sup>28)</sup>。2位のアンディ・イブラヒム・マスダルとはおよそ19万票の得票差があり、スハルディ・ドゥカの圧倒的勝利といえる。

また2024年11月の統一地方首長選挙では、スハルディ・ドゥカの長女スティナもマムジュ県知事選に再出馬した。同県知事選では、2組の正副県知事候補者ペアが争った。スティナの対抗場は現職の副県知事であったアド・マスドであった。選挙の結果、スティナの得票数が8万9003票であったのに対し、アド・マスドの得票数は5万1975票であった。こうしてスハルディ・ドゥカの一族は、2024年統一地方首長選挙において州政治とマムジュ県の政治権力を獲得することに成功した。

スハルディ・ドゥカは西スラウェシ州の民主主義者党州支部長であり、また

---

27) 前州知事アリ・パール・マスダルの弟が州知事選挙に立候補した具体的な理由はメディア等で報道されていないため、詳細については現地調査が必要である。なお2位のアンディ・イブラヒム・マスダルの得票数は14万4154票、3位のアリ・パール・マスダルの得票数は13万7181票であり、2人の得票数を合計してもスハルディ・ドゥカの得票数33万票には及ばない。

28) 2024年統一地方首長選挙の結果については、総選挙委員会のウェブサイトを参照。  
<https://pilkada2024.kpu.go.id/pilgub> (2025年1月27日閲覧)

パンチャシラ青年団の州支部長でもあるため、州知事選ではこうした組織ネットワークによる票動員も功を奏したと考えられる。またペアを組んだ副州知事候補サリム・S・ムンガの一族も西スラウェシ州の政治家一族である。しかしそれだけが勝因ではないだろう。地元密着型のパフォーマンスも州民の投票行動に影響を与えたと考えられる。また国会議員としてスハルディ・ドゥカが築き上げた中央政財界とのネットワークは、選挙資金の調達や支持政党の獲得に役立った可能性がある。

## ■ おわりに

——国会議員の顔ぶれにみるインドネシアの政治社会的変化——

本章では2024年国会議員のプロフィールを分析し、彼・彼女たちの社会的、家族的、政治的特徴を探った。2024年国会議員の特徴を整理すると、女性議員が全体の約2割を占め、宗教においてはイスラーム教徒が8割強、年齢層では40代後半から60代前半の議員が約6割を占めている。2024年国会議員の約4割が初当選者であるが、そのうちの半数近くが地方政界関係者（元地方議員、元正副地方首長およびその親族）である。

また2024年国会議員の職業的背景と政治経歴からは、経済界関係者（実業家、企業幹部、会社員、中小企業家、企業監査役）と地方政界関係者が国会の二大勢力を形成していることがわかる。2024年国会議員のうち経済界関係者は少なくとも269人（2024年国会議員全体の46.4%）、地方政界関係者は少なくとも231人（同39.8%）である。なお、この二大勢力は数の上での拮抗であり、必ずしも対立関係にあるわけではない。また経済界関係者でありかつ地方政界関係者である議員は少なくとも79人いる（脚注22を参照）。本章が指摘したいことは、経済界関係者と地方政界関係者が国会議席の7割以上を占めていること、言い換えれば、国会議員の社会政治的背景の多様性が大幅に失われていることである。

こうした2024年国会議員の特徴は、じつは2019年国会議員の特徴と比べて大差がない。経済界関係者が国会の多数派を形成する傾向はすでに1999年国

会議員からみられ、また、元地方首長やその親族による国会進出は2009年総選挙から徐々に既定路線化していた。ここに民主化後25年間のインドネシアの政治社会的変化が見て取れる。すなわち、民主化から年月が経てば経つほど、国会という中央レベルの政治空間にアクセスできる社会階層の幅が狭くなってきている。国会アクターの社会政治的多様性は失われる一方であり、今日では資金力と政治的人脈をもつ経済界関係者と地方政界関係者がおもな国会アクターになっている。国会アクターの多様性を確保するような候補者条件の見直しが行われないうちに、この傾向は今後も続くと考えられる。

ジョコウィ政権下におけるインドネシアの政治的变化としては、国会議員を輩出する政治家一族がこれまで以上に目立つようになったことが挙げられる。本章ではとくに地方政治家一族に注目した。本章で述べる地方政治家一族とは、単に「地方首長の娘が国会議員である」というようなケースではなく、一族のメンバーが地方自治体において複数の政治ポスト（正副地方首長、地方議会議員など）に就き、さらに国会議員も擁している場合を指す。

西スラウェシ州のスハルディ・ドゥカー族の事例からは、地方政治家一族が国会議員ポストを通して政治資源を獲得し、それを地方に分配することで支持基盤の拡大・強化をはかり、熾烈な地方権力闘争を有利に進める姿が浮かび上がった。言い換えれば、国会議員ポストの獲得は地域によっては地方権力争いの延長線上にあり、地方権力の拡大・強化のために国会議員活動が利用されているということである。外島の僻地に暮らす村民など地元の有権者にとっては、地方政治家一族を通して大臣や中央省庁の役人と直接会う機会がもたらされ、中央政府の政治資源（物資、情報、人的ネットワークなど）が地方社会の末端にまで直接流れ込んでくることを意味する。

本来国会議員は国政の立法アクターであり、国会は行政に対するチェック機能をもつ。しかし国政政党の多くが連立与党入りするインドネシアの政治状況では、そうした機能は骨抜きになっている。では、インドネシアにおける国会議員の実際の機能とは何か。スハルディ・ドゥカの事例をみると、国会議員は地方政府や政党支部とは異なるルートで中央政界のトップと地方社会の末端を結び付ける機能をもっているといえる。しかし、その機能をどの程度使用する

かは国会議員によって異なる。地方政治家一族にとっては地元での支持基盤拡大・強化のために重要な機能であるが、地方政界への進出をめざしていない実業家出身議員にとっては有用な機能ではないだろう。また、国会議員が国会のどの委員会に属するのか、どういった中央政界人脈を築くのかによっても、地方にもたらし得る政治資源の中身が変わってくる。そうなると、選挙区によって国会議員から地元住民に提供される政治資源には大きな差が生まれるだろう。こうした地域差が地方の社会経済状況や有権者の投票行動に今後どのような影響を与えるのかについては、今後考えるべき課題としたい。

#### 【参考文献】

##### （日本語文献）

- 岡本正明 2015.『暴力と適応の政治学——インドネシア民主化と地方政治の安定』京都大学学術出版会。
- 2019.「東南アジアにおける地方政治研究と政治王国論」永井史男・岡本正明・小林盾編『東南アジアにおける地方ガバナンスの計量分析——タイ、フィリピン、インドネシアの地方エリートサーベイから』晃洋書房, 27-47.
- 川村晃一・水野祐地 2023.「2022年のインドネシア——G20首脳会議の成功と堅調な経済回復」『アジア動向年報 2023』アジア経済研究所, 377-406.
- 菊池啓一 2013.「アルゼンチンとクオータ制」『国際女性』27(1): 92-95.
- 佐藤百合 2005.「インドネシアの企業統治と企業法制改革」今泉慎也・安倍誠編『東アジアの企業統治と企業法制改革』アジア経済研究所, 229-274.
- スチプト, アニ 2021.「ジェンダー・選挙・女性の政治的代表性——2019年インドネシア総選挙に関する分析」『東アジアにおけるジェンダーと政治Booklet series 3 (IGS Project Series 19)』お茶の水女子大学ジェンダー研究所.
- 本名純 2024.「プラボウォ政権への移行期政治」『IDEスクエア』7月, 1-10.
- 三浦まり・衛藤幹子 2014.『ジェンダー・クオータ——世界の女性議員はなぜ増えたのか』明石書店.
- 森下明子 2007.「ポスト・スハルト時代のインドネシア国会議員——2004年総選挙後の変化と連続性」『東南アジア研究』45(1): 57-97.
- 2010.「2009年国会議員にみるインドネシアの政党政治家と政党の変化」本名純・川村晃一編『2009年インドネシアの選挙——ユドヨノ再選の背景と第2期政権の展望』アジア経済研究所, 91-108.
- 2015.『天然資源をめぐる政治と暴力——現代インドネシアの地方政治』京都大学学

術出版会.

- 2020.「2019年国会議員の特徴と民主化後20年の国会議員の変化——二大勢力化しつつある経済界関係者と地方政界出身者」川村晃一編『2019年インドネシアの選挙——深まる社会の分断とジョコウィの再選』アジア経済研究所, 121-141.

〈外国語文献〉

- CNN Indonesia 2023. “Ongkos Caleg DPR RI Diklaim Bisa Capai Rp40 Miliar.” 13 August.  
<https://www.cnnindonesia.com/nasional/20230813081026-617-985391/ongkos-caleg-dpr-ri-diklaim-bisa-capai-rp40-miliar>
- Disway.id 2024. “Mengenal Zulfikar Suhardi Calon Pengganti SDK di Senayan.” 7 August.  
<https://sulbar.disway.id/read/mengenal-zulfikar-suhardi-calon-pengganti-sdk-di-senayan/>
- DPRD Sulawesi Barat 2024. “Ketua DPRD Provinsi Sulawesi Barat, Dr. Hj. Siti Suraidah Suhardi Mendampingi Kunjungan Kerja Anggota DPR RI Komisi IV dalam Rangka Kunjungan Kerja Reses di Kab, Mamuju Provinsi Sulawesi Barat.” 20 July.  
<https://dprd.sulbarprov.go.id/ketua-dprd-provinsi-sulawesi-barat-dr-hj-siti-suraidah-suhardi-mendampingi-kunjungan-kerja-anggota-dpr-ri-komisi-iv-dalam-rangka-kunjungan-kerja-reses-di-kab-mamuju-provinsi-sulawesi-barat/>
- Hillman, Ben 2017. “Increasing Women's Parliamentary Representation in Asia and the Pacific: The Indonesian Experience.” *Asia & the Pacific Policy Studies* 4(1): 38-49.
- Katinting.com 2022. “SDK Nikahkan Putrinya dengan Orang Luar Negeri, Mentan dan Pj Gubernur Sulbar Jadi Saksi.” 8 October.  
<https://katinting.com/sdk-nikahkan-putrinya-dengan-orang-luar-negeri-mentan-dan-pj-gubernur-sulbar-jadi-saksi/>
- 2023a. “Optimalkan Mesin Kapal Perikanan.” 22 October.  
<https://katinting.com/optimalkan-mesin-kapal-perikanan-anggota-komisi-iv-dpr-suhardi-duka-berikan-dukungan-di-majene/>
- 2023b. “Suhardi Duka Dorong Kesadaran Masyarakat Sulbar Melawan Karhutla.” 24 October.  
<https://katinting.com/suhardi-duka-dorong-kesadaran-masyarakat-sulbar-melawan-karhutla/>
- 2024. “Suhardi Duka: Pentingnya Penguatan Peran Masyarakat dalam Pengelolaan Kelautan dan Perikanan di Sulbar.” 5 April.

- <https://katinting.com/suhardi-duka-pentingnya-penguatan-peran-masyarakat-dalam-pengelolaan-kelautan-dan-perikanan-di-sulbar/>  
*Liputan6.com* 2020. “Hasil Rekapitulasi Suara Pilkada Mamuju, Tina-Ado Berhasil Robohkan Petahana.” 17 December.  
<https://www.liputan6.com/regional/read/4435521/hasil-rekapitulasi-suara-pilkada-mamuju-tina-ado-berhasil-robohkan-petahana>
- Mahdi Syahbandir, Effendi Hasan and Izwar 2018. “A Political Dynasty in Nagan Raya District.” *Advances in Social Science, Education and Humanities Research* 292: 234-238.
- Muhtadi, Burhanuddin 2024. “Indonesia’s Regional Elections: Electoral Competition Limited by Cartel Politics.” *ISEAS Perspective* 19 December.  
<https://www.iseas.edu.sg/articles-commentaries/iseas-perspective/2024-104-indonesias-regional-elections-electoral-competition-limited-by-cartel-politics-by-burhanuddin-muhtadi/>
- Tempo* 2024. “Apa Latar Belakang Anggota DPR Periode 2024-2029.” 10 October.  
<https://www.tempo.co/politik/peta-anggota-dpr-2024-2029-22642>
- TeropongSenayan* 2020a. “Bantuan Perekonomian Nelayan, Suhardi Duka Dorong Pembangunan Pelabuhan di Mamaju.” 7 June.  
<https://teropongsenayan.com/113445-bantu-perekonomian-nelayan-suhardi-duka-dorong-pembangunan-pelabuhan-di-mamaju>
- 2020b. “Lakukan Reses, Suhardi Duka Serahkan Bantuan ke Masyarakat Sulbar.” 3 August.  
<https://teropongsenayan.com/115048-lakukan-reses-suhardi-duka-serahkan-bantuan-ke-masyarakat-sulbar>
- Yusdinur, Rochman Achwan and Indera Ratna Irawati Pattinasarany 2024. “The Emergence and Stability of Political Family Networks (PFNs) in Banten Province, Indonesia.” *Technium Social Sciences Journal* 57: 235-248.
- Wardani, Sri Budi Eko and Valina Singka Subekti 2021. “Political Dynasties and Women Candidates in Indonesia’s 2019 Election.” *Journal of Current Southeast Asian Affairs* 40(1): 28-49.

※本章の現地語文献は多岐にわたるため日本語訳を割愛。

©IDE-JETRO 2025

本書は「クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示4.0国際」の下で提供されています。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>



